

巻頭言

比較日本学教育研究センター長

古瀬 奈津子

本センターでは、2015年度に第17回国際日本学シンポジウムおよび第10回国際日本学コンソーシアムを開催しました。2015年7月4日（土）・5日（日）に行った国際日本学シンポジウムの特徴は、国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター、および日本学術振興会学術システム研究センター、本学のグローバルリーダーシップ研究所との共催事業として行われたことにあります。「日本化する法華経」を統一テーマとし、『法華経』を典籍として取り上げたことは、国文学研究資料館が行っている文部科学省による大型プロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」との連携事業であることに基づいています。当日は、国文学研究資料館館長の今西祐一郎先生と本学学長の室伏きみ子先生からご挨拶をいただき、学内外の多くの先生方や学生さんたちに参加していただきました。内容的にも、フランス、ベトナム、中国や日本国内から多彩な分野の研究者の方たちをお招きし、学際的なシンポジウムを行うことができたと思います。このように学外の研究教育機関との共催によって国際日本学シンポジウムを開催したのは極めて珍しいことでしたが、大変充実したものになりました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今年度はまた学外の研究教育機関との共催によって初めて研究集会を開催しました。2015年10月4日（日）に国立歴史民俗博物館との共催で開かれた研究集会「民俗学からみる高度経済成長期の生活変化」です。国際日本学シンポジウムや研究集会を共催で開催できたのは、ご担当の先生方が共催先の研究教育機関の共同研究などの構成員であるためです。

また、2015年7月26日（日）には本学の科学研究費助成事業との共催で国際研究セミナーが開かれました。このように、本センターの教員が関係している研究プロジェクトや研究教育機関との共催でシンポジウムや研究集会を行うことができたことは、本センターの活動の今後のひとつのあり方を示しているように思います。

国際日本学コンソーシアムは、「異文化研究と日本学」を統一テーマとして、2015年12月14日（月）・15日（火）に開かれました。今年度は、従来の協定校以外に、南カリフォルニア大学、ワルシャワ大学、高麗大から参加していただきました。コンソーシアムの日時が固定化し、参加できない大学が現れてきたことなどは大変残念なことです。一方で、本学に新しく着任された若い先生方が近年参加して下さるなど、今後の展望が開ける出来事もあります。

今年度もグローバルリーダーシップ研究所から支援していただきました。また、この3年間は日本学術振興会学術研究動向調査等研究費の支援を得ることができ、本センターは幅広く活動することができたと思います。厚く御礼申し上げます。

来年度からはまた新しい体制によってシンポジウムやコンソーシアムなどを行っていくこととなります。皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2016年3月